

『黒い女 (07/07)』

川巾の中ほどで
足首を流れに浸して
黒いドレスの女が一人
流れを見ている

太陽の直射は眩しく
汗をたらして橋を渡る
日射が彼女を水面に
きらきらと輝いている

「ふざけるなこの暑いのに！」
「チックショウー！」

浅瀬の流れは
羨ましいほど涼しい映り
両巾の緑の山肌も
風にすがすがしい音色

橋の真ん中で
歩くのを止めた

シャツは汗で滲んでいる
タオルで拭きながら眩く

「クッタバツテしまえ！」
「このバカタレ！」

黒いドレスには届かなかった
向こうは蝉の声すら涼しいが
こっちはやたら暑く煩かった
女はじっと流れを見ている

身動きせずにいる黒いドレス
汗はいつのまにか冷や汗に
川岸にたどり着いたら
女の姿はどこにもなかった

『夢 (07/07)』

夢を見たんです
寝苦しい夜でした
うなされたんです
べっとり汗を

かいていました

夢の内容ですか？
待って下さい
いま思いだすから
あれはね
身内と思うのですが

筋書は……………
わからないのです
心に重たくのしかかる
暗い淋しい画面なのです
何かをするんです

陰険な話でね
顔も何もわからないのです
灯りも見出せなくて
殺(あや)めた内蔵が
時折散りばんで見えました

私がどういう位置に
いたかは聞き手でしたね

彼等の行為が
どうしよもなく
運命で語られるのです

悲惨なかたちで
自分たちの過去が
呪いのように画面で
映って行くのです
言葉は無かったですね

ええ？ どこで夢が
覚めたのかって？
見始めは私が歓迎され
終わりは
戻るための路地裏です

はじめじめした夜風が窓から
寝室に入り込んでいました。胸がみように苦しく、
後味の悪い心が重たくなるような感じでしたね。
私はマンションの三階に住んでいます。
そこから近くの「火の見矢倉」が見えるんです。
その鉄塔の矢倉が深夜の海原のなかで
ポトポト浮かんでいるのを、冷や汗を拭きながら
視界に入れていました。
もちろん、星など、月も出ていませんでした。

『青空 (07/12)』

空の青さに
白雲浮かび
ぽっかりぽっかり
流れてる

時には怒ったように
もくもくもくと
入道雲になって
夕立コール

アツハハー
気にしませんよ
夏のずぶ濡れなんて
いい思い出ですよ

空の青さに
白雲浮かび
遠く緑の山並みの
はるか彼方の私の夢よ

『森 (07/12)』

朝陽を浴びた
深閑の森は
ひやっとした風が流れ
びーびーびーと
小鳥の鳴き声が聞こえ
静かな風景なのです

夜露に濡れたって
平気なのです
森の冷気に身を任せ
サクサクザックザックと
気持ちの良い歩きが
たまらないですね

鬱蒼(うつそう)と茂った
森ですの
路(みち)などないので
落葉と草を踏みしめて
歩くんですよ
朝陽を浴びた森を

『稲穂 (07/16)』

田の突き当たりは
高く積まれた工場の塀
田の脇は新しく開通した
アスファルトの道路
風にたなびく稲の穂の波
あっ………また
すぎる車から空き缶が
投げ捨てられた

くる日もくる日も
こうやって田の端は
空き缶やゴミの山
吹く風に稲の波の走り
あなたって何ですか？
人間って何ですか？
田畑を工場に道路に変えて
山肌をゴルフ場に変えて

いやねえー……団地の自治会でね
カエルの鳴きが煩(うるさ)いって
で………困っているんですよ
「赤ん坊が夜泣きするんですよ」

「私の所もよ 奥さん！」
「カエルのせいよきつと」
なんとかなりませんかー
その………田をやめるとか

あなたって何ですか？
人間って何ですか？
高層ビルと空中を
走る道路とか
イルミネーションの灯りが
煌(きら)めき輝く海原とか
地上の不夜城が
人間の証明なのですか

田の向こうに新しく
パーラーが開店し
どぎついイネオンが
チカチカピカピカと
車は爆音を唸り発て
チーンじゃらじゃらは
深夜まで続いて
星は黙って煌めいている

奥さん！ パチンコのあれは
蛙よりも許せるんですよ
昼間 貴方がファイバーしているのは
他の奥さんも夢中になっているのを
知っていますかね
だったら息子さんが飲あかした缶を
田の端に投げ捨てるのを
注意して下さいよ

田に実りたる稲の穂の
風に波打つ黄金(こがね)のさは
水の精と陽の恵みを育(はぐく)んで
ざわざわざわと風に戯(わむ)
人間が投げるゴミにも黙し
人間が吐きだす排気にも耐え
もくもくと無言で
一粒一粒実らせている

『蒸気 (07/16)』

人はまだ夢路の
未明が空の中へ
巨大なプラントから
蒸気が吹きあがって

その先端は
雲になりかかっている

朝日が差込んで
人々の生活が動きだしても
白い蒸気の立ち昇りは
さらに激しく大きく続く
まるで異様を知らせる
警告のようだ

蒸気は雲となって流れ
空の中へと拡散し
地上にサイレンが鳴響き
巨大なプラントが動き出す
太陽が燃える紺碧の
青い広い空は黙っていた

『櫂(けやき) (07/23)』

ザワザワザワと
サワサワサワと
枝いっぱい広げた櫂の木は
風に吹かれて話をしてる

青い空と白い雲と
サワサワサワと
ザワザワザワと
風に吹かれて話してる

ねえねえねえ
なにをお話しているの？
ねえねえねえってば
聞いてよ！ けや木さん
人間も話すことが出来るの？
サワサワサワと
ザワザワザワと
いいなー けや木さんって

私は孤独だから
貴方の根っこを枕に
ザワザワザワと
サワサワサワと
青空に向かって語っている
白雲と話をしてる
風と戯れの語りを
じーっと眺めているだけ

私は孤独ですから
いいんですよそれで
目を瞑ってしばらくすると
心の中へ夢の中へ
響いてくるから
いいんですよそれで
寝息の中で夢の世界で
話の中にいるんですから

サワサワサワと
ザワザワザワと
風に吹かれて櫂の樹木は
青い空と白い雲と
話をしてる
いいんですよ私は
だって眠りの中で
一緒に話をしてるから

『思 (07/23)』

泪が流れおつ
悲しい悲しい
泪が流れおつ
胸の震えを

そのままに
心の痛みを
そのままに
届かぬ思いの
苦しみが
泪となって
頬(ほほ)を伝わり
流れおつ

思いの哀しみ
そのままに
泪となって
流れおつ(湧っ)
胸の痛みよ
悲しけれ
心の震えよ
哀(あわ)れけれ
届かぬ思いの
苦しみが
泪となって
流れおつ(落っ)

『存在 (07/27)』

かなしい思い出って
あるんですか？
くるしい思い出って
あるんですか？
たのしい思い出って
あるんですか？
ゆかいな思い出って
あるんですか？

みんなみんな
あなたのひとりごと

宇宙の美しさ
それが私たち
神祕の美しさ
それが私たち

人ってなんなのでしょう
生きるってなんなのでしょう
人生ってなんなのでしょう

世の中ってなんなのでしょう
どうして？ 産れたのでしょうか
どうして？ 死ぬのでしょうか
どうして？ 愛するのでしょうか
どうして？ 別れがあるのでしょうか

みんなみんな
わたくしのひとりごと

神への祈り
心はそれのみ
神への信じ
心はそれのみ

『彷徨い (07/27)』

人を愛することが
怖くて
人を信じられない
私の罪

愛されることもない
孤独の深海

仲睦まじい会話に
猜疑を投げかけ
生きすらも消したい
私の人生

愛されることもない
孤独の深海

彷徨いを止して
愛の生活をしたいと
漂いを止して
愛を得たいと

泣けにけり
泣けにけり

生きること出来ずに

死ぬことすらも怖い
己の有り様(よう)の
深淵へ落下し続け

深海の底地で
救いを求めて泣けり

泣けにけり

『胸 (07/31)』

生きている
やるせなさを
どうやって
忘れればいいのか
希望のない
海原を私の舟は
着くべき港もない

哀れなる
私の生きよ
希望を失った

哀れなる
私の人生よ

この胸の言い知れぬ
淋しさよ
お前の哀れさか
生きる炎が
消えてかつ
死ぬことできぬ
むなしさよ

End all 1994/07